



## 「愛し合い、助け合う家族」

～キリストの文化を広めるために～

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。ヨハネ福音書13章34・35節

今回、私の家族がインフルエンザになり、皆様にも大変ご心配をおかけし、楽しみにしていた「もちつき大会」もできなくなってしまったことを深くお詫びするとともに、皆様の励ましや愛に深く感謝しております。この時期はインフルエンザや大雪の時期でもあり、これから日程を検討する必要を感じました。

イエス様が昇天されてから、弟子たちはイエス様の遺言通りに、互いに愛し合い、助け合うという美しい関係を築くことを通して、新しい文化を築いていきました。それは、常にローマや異国に対する闘争心だけで生きて来たユダヤ人たちの目にはとても新鮮に映っていたことでしょう。その新しい文化をなかなか受け入れることはできませんでしたが、徐々に浸透していったのです。

その美しい文化は家族から生まれてくるものでもあると思います。日本人も「家」とか「家族」や「血縁関係」をととても重んじる文化があります。それ以上に、私たちクリスチャンにはイエス・キリストの命を懸けた愛によって生まれた「愛の家族」、「神の家族」という関係があります。現代はご家族を持たない方々や、遠くに離れ離れになっておられる方々も多くおられます。そのような方々とも家族のような絆で結び合わされる関係を持つことができます。キリストはまさにそのような方々のために愛を示されました。

「キリスト教は宗教ではなく、関係である。」という言葉がありますが、キリスト教は教える学ぶ世界ではなく、教えに生きる世界です。キリストが私たちのために命をかけて愛して下さったように、私たちも互いのため、隣人のため、また敵と言われる方々のためにその人の立場に立って、愛をあらわしていくこと、関係を持ち続けていくことを目標としていきたいと願わされています。

「信じた人々は皆一緒に生活し、すべてのものを共有にしていた。そして、資産を持っている者は喜んでそれを売り払い、それぞれの必要に応じて分け合った。また、毎日、心をつにして主の宮の所に集まっては礼拝し、家では聖餐式が行なわれ、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美し、教会外の人々からも好意を持たれていた。主は、救われる人を、毎日、教会に加えてくださった。」使徒行伝2章44～47節 [現代訳聖書]